

福祉風土をつくる広報紙

竹とんぼ

創刊号 昭和60年1月1日

編集発行

社会福祉法人 緑樹会

軽費老人ホーム

特別養護老人ホーム 緑樹苑

発行責任者

(施設長)中村 優

〒904-21 沖縄市字高原1163

電話 09893-3-1205



航海 日誌



昭和六十年、元旦。緑樹苑の杜の朝。雛雀が露にきらめく羽を震わす。

今、「竹とんぼ」が翔ばんとす。

雛雀の水玉色の羽音が、研ぎすまされた慎重さを装う空気を共震せしめ、冬の光を炎上させた今、「竹とんぼ」が翔ばんとす。

淡い想いは何処。見果てぬ夢を見んー。

闇雲に突走っている者を立止まらせ、うずくまっている者を振りかえらせんと。今、「竹とんぼ」が翔ばんとす。

もとより、墜ちるのは覚悟の上、そのときは、航空力学と「心」に雛雀の息吹きを吹きこむだけさ。

風ゆ太陽ゆ、見ちよーりよー。

うねひゃー、「竹とんぼ」翔ばさな。

撮影・奥問正則

広報紙発刊

にあたって



理事長 潮平朝俊

この度、緑樹苑の広報紙を発刊するにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

緑樹苑は軽費老人ホームが昭和五四年七月一日、特別養護老人ホームが昭和五九年五月一日から入苑を開始し、それぞれの節目にはお祝と同時に記念誌を発行して来ましたが、今回それ以外に、定期的に広報紙を発刊すること、は大変意義深いことであり、そのような企画をされた職員の皆様に深く敬意を表する次第であります。

緑樹苑は、入苑者の方が一〇〇名、職員が五〇余名、それに役員及び家族会の皆様を加えますと、随分大きな組織になるわけでございまして、今後の苑運営を円滑にするためにも、誌面を通してお互いの情報を交換し、意思の疎通をはかることは、大変大事なことであ

り、又緑樹苑の実状を地域の皆様知って頂くよい手段になると存じます。老人ホームが入苑者のみならず、地域に開かれた施設として、凡てのお年寄りのための施設でもあるということを知って頂いて、利用して頂くことは、在宅老人のためばかりでなく、入苑者の処遇向上にもつながるものと確信致します。

今まで政府の高度経済成長にさせられ、多くの老人ホームが作られましたけれども、その需要を満たすには程遠く、高齢者人口の急激なる増加、経済成長の鈍化と共に、福祉の受益者と費用負担者とのバランスが崩れ、年金や医療費、失業手当等の受給者が多くなつたため国の財政を圧迫、その打開策として、福祉政策の見直しの時期に直面しているわけでありますが、今後は、政府の補助だけに頼るだけでなく、民間の活力を活用し、地域住民の方々の参加援助を頂くことよって、老人ホームの運営もうまくいくのではないかと考えます。

緑樹苑でも、広報紙を通して、地域住民に苑の活動をPRしながら、苑の実状を紹介し、老人福祉というのには、自分達の身近な問題であるという意識を浸透させ、波紋のように福祉の輪を広げて行く

ためにも、広報紙の果たす役割は大きいのではないかと存じます。

広報紙発刊

にあたって



施設長 中村 優

あけましておめでとうございませぬ。

謹んでご尊家皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

昭和六十年の新春を迎え、老人ホーム緑樹苑の広報紙「竹とんぼ」を発刊するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

時の経つ早さには常日頃驚かされていますが、この一年の間にも国の内外を問わずいろいろな出来ごとが起きましたが、私達の法人緑樹苑におきましても、先代理事長潮平親直先生のご逝去と、実に悲しくつらいことがございました。しかし、法人役職員のチームワークと福祉関係諸機関のご指導、ご助言と地域の皆様方の力強い支

えによって、軽費老人ホームの五周年記念、特別養護老人ホームの開苑式典もどことおりに無事済ますことが出来ました。偏見に皆様のご協力の賜物と衷心より厚くお礼申し上げます。

さて、施設の利用者の方々には六度目のお正月をお迎えする方、又初めてお正月を苑でお迎えする方、といういろいろですが百二十名の利用者の方々も五十三名の職員が元気で大過なく新年をお迎えすることができて慶びにたえませぬ。緑樹苑でも施設開設以来、懸案でありました広報紙「竹とんぼ」を発刊することになりました。

施設と家族並びに地域を結ぶ福祉の大事な情報資源となるような広報紙にする所存でございます。

広報紙「竹とんぼ」が意図するところは、地域の福祉ニーズを調査といった、方法のみで把握するだけでなく地域で生活している地域住民の立場から広報紙を通じて問題を提起してもらい、施設と地域福祉関係者が共同で地域の実態を把握し、その解決の道を探る役割を担うことであります。

又、誌面を通じて、広く地域の方々にまったく自由にご意見を聞かせて頂き、施設の運営と地域福祉活動に反映させて頂きたいと思

そしてこの広報誌が地域の福祉のネットワークづくりに寄与できればはなはだ幸いに存じます。

終りになりましたが、広報誌発刊にあたり懇切丁寧に御指導いただきました関係各位並びに原稿を寄せて下さいました諸先生方に深く感謝申し上げます。

新年のごあいさつ



沖繩市長 桑江朝幸

謹んで新年のお慶びを申し上げます。市民の皆さまには、清々しい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨昭和五十九年は、本市にとりまして、発展を約束するような大型投資事業が相次いで準備され、着手された画期的な年でありました。中城湾港の建設、国体主会場を含む県総合運動公園の建設、南

伸道路問題の進展、市内環状線の建設といわゆる四大事業が大きく前進をみたのであります。

また、本市では、都市近郊農業を支える関連施設の建設をはじめ商業の一拠点であります「センター通り」が県内初の買い物公園へと力強い再生への道を踏み出しました。こうした事業が懸案であります「基地経済からの転換」を着実に実現するものと信じております。

さて、新しい年昭和六〇年は、旧年に倍する大事な年と位置付けております。本年は、中城湾港の開発に伴います企業誘致の呼びかけを中心に、栽培漁業、東部地区のリゾート・ゾーンの形成などに全力を傾注いたします。

これと同時に新年は、開催まで二年余に迫りました「海邦国体」の成功に向けて、市民ぐるみの機運を盛り上げる初年にしたいものであります。

市民のやさしさ、温かさが伝わる街の美化運動を中心に、大会りハイスール、本大会への市民の協力態勢の確立、各県派遣の役員、選手団と市民の交流を促進する民泊の充実、市民の皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。市発展を図る課題を解決するに

は、現下の諸情勢は極めて厳しい所でありますが、平和で豊かな郷土づくり”に精根を傾ける決意を新たにし、市民の皆さまの限りないご多幸を祈念して、年頭のごあいさつといたします。

昭和六〇年元旦

祝辞



沖繩市議会議長 比嘉久富

緑樹苑の皆さん、市民の皆さん明けまして、おめでとうございませぬ。

皆さんも、お元気で新年をお迎えることと、心からお喜び申し上げます。

さて、一年の計は元旦にありと申しますが、年頭にはだれしもが大きな希望に胸をはずませて、この一年の計画をお立てのことと存じます。

私たち議会も皆さんが豊かな生活ができ、明るい日々が送れるこ

とができますように、意を新たに

して、市政進展のため努力をいたす所存であります。

この度、緑樹苑におかれましては、広報紙「竹とんぼ」を創刊号(新年号)から、毎月一回刊行されることとであり、まことにご同慶にたえませぬ。当苑の施設運営や諸行事活動、地域福祉の動向等を広く市民にお伝えする広報誌として、更に、福祉都市づくりにも大きな貢献をするものと期待を寄せているものであります。

高齢化社会へ移行しつつあります今日、老人福祉問題は、もはや老人だけでなく、私たち社会全体の課題になっております。老人の方々が長生きしてよかったですと思われ社会をつくるためには、行政の面からも、生きがい対策を講ずる必要性を痛感しているところであります。皆様方におかれましても豊かで住みよい福祉都市づくり

に、今後一層のご協力を賜りますようお願いを申し上げます。どうか、軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム緑樹苑がますます拡充発展され、老人たちの楽園として、充分その機能を果されま

よう念願する次第であります。最後に、本年も皆様方にとって飛躍の年になりますようご期待を申し上げますとともにご健康とご多

地域との掛け橋に



沖縄県社会福祉協議会
会長 竹内和三四郎

昭和六十年（一九八五年）という節目の年の新春を期して老人ホーム・緑樹苑が、その名も「竹とんぼ」といって、まさに福祉の輪の広がりや明日への飛翔を象徴するような広報誌を創刊されました。誠に時宜を得た企画であり、同じ社会福祉の仲間として心からお祝い申し上げます。

ご承知のように、近年我が国は世界に類をみない速度で人口高齢化が進み、このままの勢いでいくと一九九〇年（昭和七十五年）には早くもアメリカを抜き、二十一世紀初頭にはスウェーデンを抜いて世界一の高齢者国になることが予想されております。しかも一方では、人口の都市集中化や核家族化の進行等により老人の孤独化、

疎外化が一層進む傾向にあり、今や老人問題は我が国最大の福祉課題となっております。

それだけに、老人ホームの役割も今後ますます高まっていくことは明らかであり、特に利用者の処遇面については、単に収容保護するというだけでなく、いかに快適で生きがいある生活環境をつくりあげていくかが大きな課題として浮びあがってきております。

これに対応していくためには、まず施設と地域社会とのつながりをより密接なものとし、施設利用者と地域住民がたえず交流を深めていくことが先決であります。その掛け橋となるのが、いわばこの「竹とんぼ」であり、きくところによりますと、その編集方針は、単に施設内における情報を伝えるだけでなく、広く地域社会に材を求め、しかも老人福祉に限ることなく、社会福祉全般の啓発に資することをモットーにしているとのことで、その果たす役割は、大いに期して待つべきものがあります。もとより今日のように多様化した情報社会において、こうしたミニ広報が人々の目をひくことは容易なことではありません。したがって編集にあたる側の苦勞も並大抵のことではないと思いますが、幸いに優秀なスタッフが揃って

るとのことであり、その活躍に期待する次第であります。

願わくば、この広報が、その名のとおり大空高く舞いあがり、しかも幅広くその輪を広げながら限りない発展を続けるよう祈念し、お祝いのことばと致します。

祝辞



沖縄県社会福祉協議会
会長 大山朝常

福祉情報誌「竹とんぼ」の発刊にあたり一言お祝いのあいさつを申し上げます。

近年、社会福祉の分野において地域が注目されるようになって来ているゆえには、社会福祉の課題が地域において具体化され、その課題の解決の場として地域が重視されているということだと思えます。これからの地域福祉の向上、増進をはかっていく為には、行政は勿論のこと施設、地域住民、ボランティア等が積極的に参加協働してとりくんでいかなければなら

ない社会福祉ニーズが山積しております。これらの福祉ニーズが複雑に多様化している今日、各関係機関団体がその役割を明確にしながら協同していく必要があると思えます。とりわけ高合化は急速に進んでいる現在、在宅福祉サービスの充実強化は急務を要する福祉課題としてとりくまなければなりません。このことは地域住民すべての課題であり、住民一人ひとりご自分の問題として認識していかなくてはならないと思えます。勿論在宅福祉サービスの推進における施設の役割は論をまたないと確信致します。

緑樹苑におかれましては、給食サービス事業、地域の清掃作業、ゲートボール場の地域への提供、地域老人クラブ加入、活動などいち早く地域活動を展開され、施設機能を地域へ開放して活動なされていることは周知のことだと思えます。

この時期にあたり施設の運営概要、地域の実情とその動向を把握するために広報活動を活発にしていくということは誠に素晴らしい意義深いことだと思えます。貴苑の広報誌「竹とんぼ」が今後の施設福祉、地域福祉の推進、向上に必ず貢献することをご期待申し上げます、ごあいさつと致します。

祝辞



沖縄市福祉部長
仲宗根正和

暖冬のみぎり、緑樹苑の中村施設長から月刊広報紙「竹とんぼ」の創刊についてのお知らせを受け、その先取気鋭の精神の旺盛さに驚嘆するとともに、さもあらなと心からお祝いを申し上げる次第であります。

おもえば、緑樹苑におかれては法人設立当初から中村優施設長を先頭に地域にひらかれた福祉施設を目ざして紛骨砕身のご努力を積み重ね、数多くの実績をあげてこられました。もう恒例になった街路のクリーン・キャンペーンや苑主催によるゲートボール大会等は、新聞報道等でも周知のとおりであります。また、市内のひとり暮らしのおとしよりのための給食サービスについても、当初は苑独自の事業としてなけなしの財布をはたいて、与儀、高原の両自治会一〇名の方々を対象に試行されてお

ましたが、その実績が高く評価されてようやく行政側が乗乗するようになった経緯があります。それが現在では十一自治会、五十三名にまで拡大され、昭和六十年から全自治会（一八〇名）での実施を目ざすところまでになっており、誠に感謝に堪えない次第であります。さらに最近ではデイサービス事業にも強い意欲を示され、その実現に向けて施設、市社協、行政の三者による定例勉強会を主催されていることには深く頭をさげずにはおれません。このように二、三の例をみても、緑樹苑が単に施設内のことばかりでなく広く市全体の福祉のありかたとその向上のため努力を積み重ね、ある意味では行政の先導的役割を果さんとされておられる姿勢は実に尊いものであり、衷心より敬意を表するものであります。

地域福祉の向上を目ざして八面六臂の活躍をしておられる緑樹苑が、種々の福祉活動の現状を広く地域の皆さんに伝えるべく月刊広報紙「竹とんぼ」を創刊されることは誠に時宜を得たものであり、同慶に甚えませぬ。「竹とんぼ」の充実発展と、それを支える緑樹苑精鋭諸氏のご健康とより一層のご活躍を心から祈念申し上げ祝辞と致します。

祝辞



沖縄市老人クラブ連合会
会長 比嘉真栄

軽費老人ホーム・特別養護老人ホーム緑樹苑の広報紙「竹とんぼ」の創刊にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

近年、高齢者人口の急激な増加による、高齢者を取り巻く社会情勢の変化で、種々の社会問題が全国的問題として、国会・新聞報道等で大きく取り上げられております。特に、一人暮らし、ねたきり老人の問題は、老人福祉施設の充実・強化はもとより、地域福祉推進体制の早急なる確立と併せて重要な課題であります。

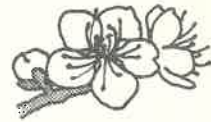
現在、貴苑がその認識の上で、入苑者（軽費五十名・特養七十名）一二〇名の快適な生活環境づくり、処遇向上は無難なこと、地域社会との密接な関連を持つ開放された施設形成を目指した活動として、給食サービス事業、施設機能、設備の開放、国体の街美化運動、老

人クラブ結成による入苑者の地域活動関係機関、団体への積極的な参画等々を、中村苑長以下五二名の職員の皆様が丸とあって、日夜奮闘・努力をしております事について、私達、老人クラブ員は、老人福祉向上のために活動している一員として、貴苑の活躍に感謝と敬意を表します。

この度、施設運営・行事活動・地域福祉の動向・市内福祉団体の紹介・随筆・俳句などの掲載内容で広報紙を毎月一回発行されます事を伺い、期待をしております。本会でも会報の発刊の経験がありますが、機関紙の発刊には、記事収集・編集に大変な苦勞が待ち受けている事が予想されますので、皆様が会報発刊の趣旨・目的達成に向かって、忍耐強い活動を展開して頂きますよう、御期待致します。

最後になりましたが、貴苑の入苑者・職員の皆様のご健康と御活躍、貴苑の益々の御発展を祈念し、広報紙「竹とんぼ」の創刊にあたってごあいさつと致します。





地域との交流深める

もちつき「ヨイショ」 緑樹苑第一回もちつき大会

緑樹苑にとって初めてのもちつき大会が、地域との交流を目的として、暮れもおしせまった十二月二十八日に、施設内広場で行なわれました。

その日は、あいにくの冷え込みとなりましたが、利用者、職員、家族会の方、地域の老人クラブのお年寄りの方も多数参加されて、初めてのもちつきを楽しみました。

用意された三つのうすを「ヨイショ」「ヨイショ」のかけ声とともに多くの参加者が、かわるがわる寒さも忘れ四十キロもあるもち米をつきました。

ついたもちをさっそく、全員で作ったり、あんこもちにしたりして味わいました。初めてのもちつき大会ではありましたが、全員、疲れもみせずにおもちを味わいながら「つくきたてのモチはおいしい」とか



「このモチはつき足りないのではないかな」などとあちらこちらで、もちつきの話に花を咲かせていました。

第一回目ということで、うすも三つしか用意されていませんでしたが、中村苑長の話しによると、来年のもちつき大会からは、うすを、もっと増やし、多くの福祉関係者をお招きして、夏の納涼まつりとともに緑樹苑の二大行事にしたいものだと言っていました。



みどりの広場

こどもの国で遠遊会

初めての動物にビックリ

去る十一月九日緑樹苑の遠遊会が、沖縄市にあるこどもの国で、もたれました。好天にめぐまれたその日は、利用者、職員の他多くの家族会の方が参加され楽しい一日を過ごしました。



午前中は、全員で動物園をまわり、これまでに見たことのない動物を見学しました。熊を牛と見まがえたり、キリンの首の長さにビックリするなど、中には生まれて初めて見る方が、動物達を魔物（マジモン）呼ばわりするなど、声をあげて喜ぶやら驚くやら大変な騒ぎようでありました。お弁当の後は皆で唄や踊り、ゲームなどで楽しい一日を過ごしました。

帰苑してからもよほど楽しかったらしく遠遊会に参加できなかった利用者や職員に遠遊会での出来事、動物のことなど自慢気に話したり興奮さめやまぬという状態がありました。しかし、さすがに疲れたのか夕食をすませるといつもより早い時間に床に就かれたようです。苑内ではしばらくの間遠遊会の話でもちきりでした。

緑樹苑クリスマスパーティー

余興とご馳走にご満悦

緑樹苑では、十二月二十三日午後五時より恒例の忘年会をかねたクリスマスパーティーが開かれました。定刻になるとジングルベルの鈴の音とともにサンタクロースに変装した中村苑長が、各居室前



にあらわれました。プレゼントを山積みにした櫛をひいてお年寄り一人一人にプレゼントを、手わたされました。今年から職員による仮装行列も登場しサンタクロースを先頭に、花嫁さん、ウミナイビ、ピエロなどがつきつきおもしろおかしく歩く姿に利用者の笑いがたえませんでした。仮装行列がおわった後、食堂広間でパーティーが開かれ、今年の特養も新設されたので実に盛大なパーティーとなりました。利用者をはじめ来賓の方、家族会の方、職員の参加のもとに余興が次から次へとくり広げられました。各部所からの芝居劇や踊り、ものまねなどが演じられ利用者は、ごちそうをいっぱい食べながら次から次出て来る余興を楽しみました。閉会の後も各居室に戻り、手わたされたプレゼントを広げるお年寄り達の顔はたいへん満悦顔でした。



- バフェ (500円) 食べ放題
- 敬老会, 結婚式, 各種宴会

- オードブル, 折詰
- その他注文に応じます

お食事処

みやらび

(沖縄市老人センターかりゆし園内)

沖縄市知花756番地
TEL. 09893-8-4866

福祉の街は今

立派な作品がズラリ展示

沖繩市生きがいと

創造の事業展

沖繩市老人クラブ連合会主催の生きがいと創造の事業展が、十二月十五日(土)から十二月十六日(日)の二日間にわたり沖繩市老人福祉センターかきゆし園にて開催され参観者でにぎわいました。

お年寄りが、その経験と知識を生かし希望と能力に応じた生産、又は創造的活動に参加することによって老後の生きがいを高め、その生活を健康で豊かなものとすることを目的とし、多くの作品が出品されました。

出品された作品は一千点にものぼり、手芸、手工芸、陶器、菓草園芸、絵画と多岐で、とてもしろうとの作品とは思われない見事なものばかりでした。

中でも、特に参観者の人気を集めたものは陶器で、陶芸実演コーナーでは壺や皿などの作られる過程を披露し、実際に子供達が陶器づくりに参加していました。

又、手芸コーナーでは、セーター、マフラー、コート類が好評でよく売れ、他に手工芸コーナーではヤンバルクイナや、おなが鳥など一つ一つの作品に工夫がこらされ会場一面に、和やかな雰囲気をつくりだしていました。

また、絵画コーナーでは、与那覇朝大先生の作品が出品され、沖



繩をテーマにした画風に、多くの参観者が魅了されました。

この事業展は、今年で二回目を迎え、今後一層の充実したものにしようと、関係者は意欲を持っていました。

スポーツの秋を満喫

市老人クラブ運動会

「日頃の運動不足を解消し、親睦と社会交流を深めよう」と沖繩市老人クラブ主催の運動会が、十一月十八日(日)沖繩市宮ソフトボール場で開催され市内から十一組の老人クラブの会員の他、身体障害者協会、がじゅまる共同作業所の子供達も参加し盛りあがりのある運動会になりました。

全員で故郷体操をした後、ゴールマリレーで競技が開始され、秋の晴天のもと十六種目の競技が繰り広げられました。

競技内容は、第一種目のゴールマリレーの他、各リレー競争、借り物競争、デカパン、ボールけり、玉入れ競争とユニークなものばかりで、日頃激しい運動には慣れていないお年寄り達が、リレー競争で転倒するシーンや、身体障害者



協会の人達の車椅子で競技に参加し一生懸命に車椅子を走らせる姿に会場は湧き、われんばかりの歓声と拍手の渦の中で、選手一人一人が、自分の力を発揮していました。

定刻通りの時間に運動会も無事終了し楽しく意義深いひと時を過ぎた人達のすがすがしい笑顔が印象深い運動会でした。

なお、参加チーム十一組の中の優勝は、知花、美里、松本老人クラブで編成された九組という結果に終わりました。



市 沖繩市
身 体 障 害 者 協 会

沖繩市身体障害者協会は、市内に在住する体の不自由な人達(一八才以上)が集まってできた団体です。私共の協会は現在一七八名の会員をかかえ、会員の福祉向上はもとより、障害のある人もない人もみんなが住みよい福祉の街づくりの為、微力ながらも努力して参りました。

私共の年間を通しての活動には、定期総会、県身障者スポーツ大会、ピクニック等いろいろありますが、とりわけ県下でも例をみない活動として、市老連との多方面に渡る活動協力があげられます。

一九八一年の国際障害者年の前年に市老連運動会への参加を契機に、老人クラブの方々のご理解を賜り、年々両団体の信頼、連体感

は深まって参りました。

昭和五十七年には、市老連と身障協主催により、市内福祉団体の

協力のもとに第一回福祉作品展示会が開催されました。そして、その成果が、今回の第一回沖繩市福祉まつりの開催へ結びついたことは、沖繩市の福祉向上に大きな期待がもてるものと確信致します。

次に、私共協会の日常活動をご紹介いたします。若い仲間が中心になってやっている卓球クラブ、婦人の方々の手芸クラブ、そして、県大会でも毎回優秀な成績を納めている囲碁クラブの活動があります。

特に卓球クラブの活動は、精力的で、毎週二回の活動日には、市内の仲間達ばかりではなく、広く中部一円の体の不自由な若い仲間が集い、卓球を通して心の交流の場としても有意義な活動を展開しています。

また、私共の協会には、障害別に同じ障害を持った人達で作られている部会があります。目の不自由な人達の視覚障害者部会、耳の不自由な人達の聴覚障害者部会、それぞれ独自の活動も行い、同じ悩みをもった人達同士が協力、励ましあって頑張っています。

しかしながら、私達をとりまく社会情勢は今なお厳しいもの

があり、その問題解決にはまだまだ時間がかかる状況です。そして、それらの問題は、私共協会の力だけでは到底解決できるものではなく、多くの方々のご理解とご協力を仰がねばなりません。

つきましては、今後ともより一層のご協力とご援助を私共協会に賜りますようお願い申し上げます。

障害者自立への道

身障者の映写と講演

沖繩市身体障害者協会主催の映写と講演が、十二月十八日(火)沖繩市社会福祉センターにて開かれました。

この日はあいにくの雨にもかかわらず、各福祉施設関係の方々が集まり、一人一人が熱心に講演を拝聴しておりました。

映写では、障害者が残された機能を使って生きていく為に、希望、意欲をもたせることを目的として行われている厚生省主催の運動会や、宮崎県の全国身障者スポーツ大会などの模様を、紹介しておりました。

また、講演では講師に厚生事業協会常務理事の山城永盛氏をお招きし「障害者の自立への道」と題して、一九八一年国際障害者年以後の福祉法改制による我が国の福祉の変せん、更に身障者が自立して行く為の就労と、雇用の問題をアメリカ、オーストラリアの現状と比較しながら、これからの我が国の授産施設のあり方を厳しく考えなければならぬとのべられていました。

この講演は、十二月九日の障害者の日にちなんで開かれたもので、意義深い講演となりました。



新春早々、しかも発刊第一号という貴重な紙面に稿を寄せるなど全く世間を恐れぬ所業と心得ながら、反面この年寄りのことを忘れず指名して下さったことが、何とも嬉しく、つい図に乗ってしまった次第である。というのも最近の風潮をみていると、どうも年寄りを邪魔にする傾向が強くなり、老いたりとはいえず、折角与えられた人生を何かやっと思っても、世間では「年寄りの冷水」ぐらいにしか受けとってくれないからである。

退屈しない人生を

島 マス

人生五十年と言われた時代ならともかく、世はずでに人生八十年時代に突入している。ということに十年以上は停年になってからでも、なお三十年以上の人生を送らなければならぬわけ、その間を無為に過ごすことがどんなに辛いことか。古人も言っている。「人生は短い。しかし、退屈がそれを長くする。どんな人間の生活も、退屈の居場所が見つからぬほど、短くはない」と。

短い人生でこれである。ましてや今日のように長い人生を退屈しながら過ごすなど、考えただけでも身の気のよだつ思いがする。そんなわけで、我が老人クラブでは、それぞれの会員が昔とった杵柄と趣味を生かしながら、学習やレク、社会奉仕と、いろいろな活動を続けているが、「老いてますます盛ん」の言葉通り、同じ仲間がうち揃っての活動は、実に楽しいものである。といって浮かれてばかりもいられないのが現実である。このように老人クラブに入ってから毎日楽しく過ごせる人たちはいいとして、世の中には、健康的にあるに家庭的に恵まれず、悶々と孤独な日々を送っているお年寄りも数多くいるのである。これらの人たちに対しては、もちろん福祉サービスの面で手厚い対応がなされなければならぬが、

たといえ、ねたきり、ひとり暮らし老人といえども、単なる医療介護や物質面のサービスだけではどうしようもない。要はこれらの人たちの精神面をどう支えていくかが問題である。これからはますます高齢化が進んでいくなかで、老人自体、自立を心がけるべきなのは当然であるが、自立したくとも、それができない人々にたいしては、やはり側面から援助していくなかで、それぞれに生きがいと退屈しない人生を見つけてあげることが肝心である。そのためには、地域住民みんなが「自分もいつかは年をとるんだ」という認識のもとに、生活環境そのものを老人や障害者など弱い立場の人々が心身ともに安心して暮らしていける状態にしておくことが先決である。すでに八十の坂を越えたオバアがつい調子に乗って、いっばしの口をきいてしまったが、「年寄りの冷水」と言われても、この年では、あまり気にすることも無い。それでなければ、これからの世の中を若い人たちと肩を並べて生きていくことはできないからである。(中老連副会長)



古くから沖縄には「言葉銭じけり」という諺があります。言葉はお金のよう大切に扱わなければならぬといった戒めでもあります。

以前、人の噂話を聞いて、相手の人格を深く傷つけたとして、訴えられた三人の主婦に慰謝料を支払うように命じた裁判記事が新聞に載っていました。この時は、噂話ぐらいで裁判ざたとはおとなげないものだと感じていました。

しかし、老人ホームに勤めるようになり、時がたつにつれて、言葉というものが、これほどまでに私達の人生を左右するものであるのかと考えるようになってきました。

言葉のつかい方を一歩まちがえれば、慰謝料だけでは済みません。相手を絶望のどん底に落し入れることもあるのです。人間だけに与えられた言葉を生かすも殺すも、その人次第であります。真心のある言葉は、キラキラ輝く宝石のように相手を魅了し、ハッピーな気持ちにさせ、そして自分もハッピーになります。(寮母・安次嶺喜美子)

文芸

〔俳句〕 松尾 由希子

靴下が風にそよぎて蝉とまり
ワラ帽子又一つ増え砂山に
山あいに名残りて哀し秋桜

〔短歌〕 松長 静子

又一つ年をとるかカレンダー
昔思いつ心十七つ
宮原 アヤ
それぞれによき日もありて独身寮
朝に夕べに集いて語りむ
松尾 由希子
無造作に手折りて押せし
クロトンの

芽初春をきくがごとくに

〔琉歌〕 町田 ヨシ

互に語らとしてしわ事ん忘て
朝夕踊いはね若くなゆき
わしたうとすいや緑樹苑いちやて
長命ゆみせるお願げさびら
思くとん忘して緑樹苑くらち
楽ゆかじかじめ嬉しやびけじ

ハムスター

一年 やまだ あきこ

九月ごろ、お父さんが、ハムスターを二ひき買ってくれました。おすの名まえは、コロでめすの名まえは、ミミとつけました。ミミは、げんきがなくて、しんでしまいました。

でもコロはさびしがらないでげんきにはねまわり、ときどきかごの中からでて、大さわぎになったこともあります。わたしがえさをあげると、どんなほおぶくろの中につめこんでしまいます。

えさがなくなったら、ほおぶくろの中につめてあったものをだして、それをたべます。見ていると、とってもおもしろくて、かわいいです。

これから、ふゆになるので、ハムスターは、ふゆごもりじたくをして、さいちゅうです。かごの中に、しんぶんしや、たけづつをいれたら、それをつかっ

て、すをつくりました。ハムスターは、じぶんのことはじぶんでするから、えらいなあとおもいます。



真栄城兼隆(73才)

昭和五十九年は緑樹苑が創立五周年を迎え、かねてからの念願でありました特別養護老人ホームも開設され、盛大で素晴らしい祝賀会の感激が、今も尚おもしろいお

さらされたことに記念すべきよい年であった時の喜びは、感慨深いものがありました。更に昭和五十七年四月から昭和五十九年五月までの間に、沖繩市老人クラブ囲碁大会で優勝三回、準優勝一回、中部地区老連囲碁大

会優勝一回、準優勝一回の好成績を挙げる事が出来、昭和五十六年九月三十日には老人クラブさつき会の会長に任命される等、これまでの苑生活が私にとってまことに思い出深いものであります。戦後の混乱期を生きぬいて来た我々が、今このようにして、苦楽を共にわかち合い、幸せな余生を送る事が出来ますのも、後世の努力により目覚ましい発展を遂げ、また四十年の永きにわたる日本の平和の賜であり、これからも世代を受け継ぐ皆様の福祉への情熱の炎が、永遠にともし続きますようにお願いするものであります。

1 月 の 予 定 表

日付	曜日	緑樹苑の行事	地域の行事
1	火	新春居室訪問	
2	水		
3	木		
4	金	給食サービス	
5	土		
6	日		
7	月	給食サービス	
8	火		
9	水	苑内清掃	
10	木	ふるさと訪問	
11	金		
12	土		沖縄市老人クラブ新年会(かりゆし園) (かりゆし園) 12日
13	日		
14	月	給食サービス	沖縄市老人クラブ新春囲碁大会 (かりゆし園) 14日
15	火		
16	水	北九州・沖縄交歓ゲートボール大会及び 宿泊旅行(本部町)	
17	木	" "	第10回沖縄市老人クラブレクリエーション大会(市民会館) 17日
18	金		
19	土		
20	日		民生児童委員協議会 「芸能の夕べ」(市民会館) 20日
21	月	給食サービス	
22	火	新春花見会(八重岳)	
23	水		
24	木	ふるさと訪問	
25	金		
26	土		第1回 沖縄市福祉まつり開催 26日
27	日		" "
28	月	給食サービス・鬼餅(ムーチャー)	
29	火		
30	水	苑外清掃	
31	木	誕生会	



伝言板

【第1回 沖縄市福祉まつり】

〔期間〕 昭和60年1月26日(土)
~27(日)

〔場所〕 沖縄市営体育館

〔内容〕

作品展示会及び即売会

映写会

芸能大会

広島東洋カープサイン会

ゲートボール大会

綱引き大会

福祉抽選会

バザー

等、盛たくさんの催し物を予定しております。

第10回 沖縄市老人クラブ

レクリエーション大会

日時 1月17日(土)
午前10時~

場所 沖縄市市民会館
<自由参加>

民生児童委員協議会

「芸能の夕べ」

日時 昭和60年1月20日(日)
午後 2:00
午後 6:00 2回公演

場所 沖縄市市民会館

感謝録

温かい御支援、御協力下さいました方々に、紙上より厚く御礼申し上げます。(昭和五十九年十一月一日~十二月十五日)

金品の部

センター心友会 識名澄子様。前田とみ様。鹿児島県大島郡知名町 民生委員様。

物品の部

泡瀬青年会婦人会様(みかん) プリマート様(みかん おから) 安里安浩様(貝割れ大根菜) センター心友会様。山里婦人会様(古着) 日本専売公社沖縄事業局様(たばこ)

ボランティア訪問の部

森松良孝様。仲宗根洋子様。泡瀬青年会婦人会様。鹿児島県大島郡知名町民生委員様。山里婦人会様。安慶和老人クラブ様。室川老人クラブ様。照屋老人クラブ様。

